

吉川区

地域協議会だより

(第 38 号) 令和 2 年 1 月発行
発行 吉川区地域協議会
編集 たより編集委員会
事務局 吉川区総合事務所
総務・地域振興グループ
TEL 025-548-2311

『新年によせて』

吉川区地域協議会 会長 片桐 雄二

新年あけましておめでとうございます。吉川区の皆様におかれましては、幸多き年の幕開けとお喜び申し上げます。

第 4 期の地域協議会も、今年の 4 月で任期満了となります。ここまで来ることができましたのは、地域の方々のご協力と関係者の皆さんの温かいご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

今年度の地域協議会は、皆様からいただいた数々のご意見等についてそれぞれの部会で活動して参りましたことをご報告させていただきます。ご意見ご要望の全てに対する的確なご回答や活動ができたとは言えませんが、それぞれの委員が今も吉川区の皆様と同じ気持ちになり、その解決に努力を惜しまずに活動しております。報告会等の開催時には、ぜひ多くの皆様のご参加をお願いいたします。

さて、令和 2 年度から吉川区地域協議会の委員数は定員が減り、現在の 14 名から 12 名になります。これは人口減少に伴う定数基準の見直しによるものです。人口減少により協議会委員数が減るのは吉川区だけではなく、吉川区以外にも 3 つの区でそれぞれ 2 名の減となります。しかし、28 区の中で 1 つだけ協議会委員が 2 名増える区があります。その区は、平成 27 年 14,838 名→令和元年 15,242 名と若干人口が増えています。これはたまたまの現象であり、上越市全体ではやはり人口は大きく減っています。

人口減少は全国規模で起きています。私たちの吉川区は上越市の中にありますが、国でも、市でも人口減少には有効な手立てがないようです。人口減少は当然経済の発展や流通、消費にも影響を及ぼします。税収も減少し、市政にも悪影響を及ぼすでしょう。

そんな中で、私たちはどのようにこの吉川区を明るく、活力ある地域にしていけるのかを真剣に考えなくてはなりません。吉川区のあらゆる団体・住民の皆さんや地域協議会が力を合わせて、地域の未来を考え、積極的に行動すれば、きっと素晴らしい吉川区が築けると思います。

「何をしてくれるのか?」ではなく「何をしていくのか」を議論し、その中で行政等に必要な支援や協力を要望していくことが大切だと思います。

新年にあたり、吉川区の皆様の益々のご多幸をお祈り致しまして、ご挨拶とさせていただきます。



吉川区地域協議会委員『新年の抱負』

初春のお喜びを申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

住民が主役の地域づくり、融和の中で継続が力に、地域の多様なニーズを受け止め、制度や分野の垣根を越えた地域活動に取り組み、互いに認め合い、心を寄せ合い、「素直な心」で人の心の痛み、悲しみに共感できる力を、お互いもつと養い、理想や目標を描き、それに一歩でも近づこうと努め、周囲の期待に応えるべく、日々精進に心がけ、新しい次なる一歩に向けて、在任期間、微力ですが努めたいと思います。

副会長 加藤 正子

明けましておめでとうございます。

協議会委員としての任期 4 年もあと僅かです。委員の皆さんと活動してきたことで、少しでも吉川区のためになればと考えます。

今後も、特色あるまちづくりを皆さんと検討してまいります。吉川区の皆さんのご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。

副会長 山岸 晃一



新年明けましておめでとうございます。

私達の任期も残り僅かとなりました。これまでの間、「出張」地域協議会等で皆様から色々な意見・要望をお聞きし、対応を協議してきました。これからも皆様と共に考え、より良い吉川づくりに努めるように、次期委員へ引き継いでいきたいと思ひます。 五十嵐 豊

新しい年を迎え身も心も麗しき時かと存じます。今年こそはと、想いを抱くから故、真摯に向き合い、堅実に着実に、諦めることなく、前へ進む姿こそが、この地の将来へ繋がるものと考えます。次世代の吉川のためにも、更なる議論の場を求めていく所存です。

薄波 和夫

新年明けましておめでとうございます。

年が明け、任期もあと僅かとなりました。今一度初心にかえり、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう、頑張つて参りたいと思ひます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

大滝 健彦

新年のご挨拶を申し上げます。

広域合併の成果が問われています。今後5年、10年後のことを考えて、【吉川区をより住みやすくするためには何をすべきか？】一人一人が絆を持って行動することが大事です。在任期間は残り少ないですが、微力ながら努めたいと思ひます。

佐藤 均

第4期協議会を振り返れば、高齢化、単身世帯の増加、『限界集落』の発生、人口減少等が加速し、止められません。誰もが安心、安全に住み続けられるよう、市と連携し、微力ですが頑張ります。将来、吉川区に多くの魅力を覚えて定住する若者が増加し、希望の灯がともるよう推進します。

関澤 義男

新年あけましておめでとうございます。

地域協議会委員の4年間という任期も、残すところ4ヶ月ほどとなりました。

地域協議会ではたくさんのことを学ばせていただきました。残りの任期を、少しでもより良い地域になるよう頑張りたいと思ひます。

平山 英範

新年明けましておめでとうございます。

残された4カ月という任期の中で、懸案事項がなんとか解決できればと思ひています。地域の発展のために粘り強くがんばろうと思ひます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

山越 英隆

新年明けましておめでとうございます。

地域協議会の任期もあと僅かとなりました。少子高齢化が進む中、地域の課題は多い状況ですが、吉川区の未来への大いなる可能性はまだまだあると思ひております。

本年もよろしくお願ひいたします。

横田 弘美

皆さま、明けましておめでとうございます。

「フェークだ」、「ファクトだ」と報道されることがありますが、今年のネズミがなぜ干支の最初で、ネコがいないのか面白く語る民話があります。神様の御触れの出たネズミは上手く立回り、出なかったネコはネズミに騙され干支に入れなかったとのこと。

委員任期も残り4カ月。協議会出席が委員の責務と考えています。

上野 康博

吉川区地域協議会の委員の定数は、現在、14名です。当初から2名減り、次期改選後は更に2名減つて12名となります。現在の協議会には、区の課題を見つめる女性の目が圧倒的に足りません。男女共同参画や女性の活躍、参画の面から疑問です。次期改選では自薦、他薦でたくさんの女性が参画されるよう望みます。そして、身近なことや市政全般に関心を持ち、地域協議会から提案、意見を発信しましょう。

片桐 利男

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

上越市も様々な経費削減を打ち出しています。その中には直接、我々の生活に直結する内容が多く含まれています。何が必要で、何を削減すればよいのか。全ての削減に異議を唱えることは財政上からできません。その中身をしっかりと把握し、行動に移していきたいと思ひます。

中村 正三



<専門部会の活動状況>

『安全安心を考える』

安全・安心部会長 平山 英範

謹んで新年のお慶びを申し上げます。私たち安全・安心部会の活動も、残すところ4カ月ほどとなりました。

皆さんは安全、安心とは何かを考えたことはあるでしょうか。安全、安心の感じ方、考え方は個人差があると思いますが、一説では皆さんが安全についてよく理解し、いざという時の心構えを忘れず、それが保たれている状態こそが安全が実現していると考えられています。今年は東京オリンピックの年です。競技の一部を東京から札幌に移したことも安全・安心のための取組の一つではないでしょうか。

私たちの部会にもまだ、「出張」地域協議会でいただいた課題で未解決のものも残っています。また、新たに出てきた課題もあります。中でも防災行政無線関連については現在、地域協議会全体で協議中です。残り少ない時間ですが、少しでも地域の皆様のお役に立てるよう、頑張っていきたいと思っております。

『「出張」地域協議会を終わって』

暮らし・支え合い部会長 上野 康博

平成28年10月に始まった「出張」地域協議会は区内7会場で開かれ、平成30年3月で終了しました。多くの皆さま方のご出席とたくさんの声をいただき、ありがとうございました。当部会へ付託された声を紹介すると集落機能維持、交通・買物弱者の生活インフラ整備、高齢化による自助困難、地域コミュニティ（除雪・共助不足）等々多岐にわたっています。いただいた声は都度、部会で検討し、全ての「出張」地域協議会が終了したあとに再度、検討を行い、地域協議会へ報告しました。制度上、地域協議会は地域の案件を協議するとあり、次のステップに壁を感じているのが現状であります。

合併後10年余り。吉川町時代は諸手続きや困りごとで役場へ行けば、職員は顔見知りでお話していたと思います。合併後は吉川町時代と風景が変わり、声をあげるのみにやらの空気の中、「出張」地域協議会が多くを発する「場」だったのではと感じる今です。

『人口急減を食い止める策を模索する』

次世代担い手部会長 関澤 義男

人口減少の影響は膨大なものです。地域協議会だより第35号でも触れたとおり、次世代担い手部会では区内の皆さんから「若者が減少し、地域の行事等の継続が困難になった。」「農家の高齢化で地域農業が衰退し、農地の保全、維持が困難になった。」との声を聞き、協議を続けています。当部会の発案により、吉川区地域協議会では平成29年度には、定住人口58人の実績を持つ十日町市へ地域おこし協力隊に関する先進地視察に出掛けました。吉川区にも石川元隊員が定住されましたが、更なる移住・定住の取組が必要と考えています。

また部会では、将来の子ども数の増加に繋がる結婚人口の増加、若者を結婚へ促す取組が最も重要であると考え、新たに立ち上がった任意団体『次世代を励ます会』に部会員も参加して、この夏に婚活講演会を実現できました。結婚への機運を促す一助になってくれればと思います。講演会の開催にご協力いただいた皆さん、講演会に参加していただいた皆さんに感謝いたします。

人口減少は一朝一夕で解決できませんが、将来を担う子どもたちのために頑張ります。

<地域協議会の呼びかけで新たな活動もうまれました（トピックス）>

『次世代を励ます会 活動の報告と今後』

次世代を励ます会会長 大滝 健彦

次世代を担う人たちに何をしてあげられるか？どのような活動等が励みになるか？

そう考えて行動する仲間が集い、今年の春、この会はできました。まだまだ若い人には負けていられないと「あんちゃ」「あねちゃ」8名で動き回っています。まだ活動らしいことはしていませんが、昨年9月に地域活動支援事業を活用し、結婚を一つのテーマとした講演会及び交流会を開催しました。結婚の当事者はもとより、敢えて親御様に考えてもらう内容として、講師からは各種データを用いた現状説明と、そこからの対処、行動等を詳しく、また納得がいくように講演していただきました。参加された方にとって一つでも心に残り、また参考になったなら幸いです。ありがとうございました。



今後はどのような形で次世代を励ましていくのか？今は一つ終えた所で次のステップへ足踏みの最中です。しかし、この会のメンバーは個性が豊かです。発言力と行動力があります。“一つの考えより八つの考えがあれば何かが出る。出せる。”微力ながら頑張っています。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

<地域協議会のさまざまな活動（報告）>

『防災行政無線の活用に係る検討状況の報告』

会長 片桐 雄二

この夏、市から、吉川区総合事務所における当直者による時間外受付業務を廃止し、これに伴って、火災及び停電に関する防災行政無線での放送を廃止するという方向性が示されました。

平成 29 年度までに行った「出張」地域協議会で区内の皆さまから防災行政無線等のご質問やご意見があり、地域協議会では以前からこれに関連する問題を自主的審議事項として検討していたことから、今回の市の方針を受けて、このことも併せて検討を重ねるべく、「防災行政無線の活用に係る検討委員会」を立上げて検証を行うとともに、地域協議会での勉強会をしておりました。

そうした中、最近になって市からは、時間外受付は引き続き廃止の方向で検討しているが、防災行政無線による放送は従来どおりの運用とする（変更なし）との方針転換が示されました。しかし、「出張」地域協議会でお聞きしたご意見、ご要望にありました案件については、自主的審議でも重要な案件であるとの協議結果から、吉川区総合事務所における防災行政無線運用についての質問書を提出し、文書での回答を求めることを地域協議会において決議をしたところです。

『令和元年度頸北地区地域協議会委員合同研修会報告』

副会長 山岸 晃一

令和元年 10 月 4 日研修会に出席しました。研修のメインは、大山健康福祉部長の講話でした。題目は「上越市における少子高齢化問題と行政施策について」で、令和 7 年までの市の人口推移予測や地域自治区ごとのこれまでの人口増減、年齢構成等を示して、それに対する施策として、まち・ひと・しごとの創生総合戦略の提言でした。

●しごとづくり ●結婚・出産・子育て支援 ●まちの活性化 ●U I J ターンとまちの拠点性

その後、各総合事務所の担当者から各区の関連項目の説明があり、頸城区を除いて、ほかの区は確実に人口減少傾向との報告を受けました。質疑応答では、吉川区の婚活支援活動報告があり、他に保育費用の無料化に伴う説明会を開催するよう要望があり、大山部長からは市では国補助に上乗せの子育て支援施策をとっているとのことでした。地域自治区の活性化は、全区一律な統制をとることよりそれぞれの区が特色を生かして努力することが大切であると認識しました。

『地域活動フォーラムに参加して』

委員 薄波 和夫

令和元年 11 月 24 日（日）、「まちづくりの人材育成・人材確保について一緒に考えてみませんか？」をテーマに上越市の主催で開催された地域活動フォーラムに参加させていただくこととなり、市民プラザにてお話しを伺いました。講師は、NPO 法人 まちづくり学校 理事 金子洋二氏。

講演の中では、各地の地域づくり、まちづくりの事例が紹介され、当区にても頑張っておられる方々の姿も紹介されておりましたが、いずれも、地域性のあることが強く感じられました。中で、テーブルワークがあり、次のテーマを問われました。

- 若い人は地域づくりに関心がない
- 若い人は地域に愛着を持っていない
- リーダーは孤独である
- 人口は多い方がいい
- 高齢化率が高いことは、悪いことである
- 交流人口を増やせば、移住者も増える
- お金がないので、何もできない
- 行政もお金がないので、地域活動や市民活動は自立しなければならない

みなさんは、このテーマを、どのように受け止めますか？

この吉川の将来を考えたとき、どのようにお答えできますか？

地域づくり、まちづくりに、想いがありましたら、是非、地域協議会へお声を掛けてください。

【編集後記】

平成から令和の時代になり 2 年目に入りました。また、今年はねずみ年です。十二支の最初の年になります。残り少ない任期ですが、新たな気持ちで臨みたい年の初めです。

しかし、元号が変わっても過疎化、少子高齢化は年々厳しさを増しています。また、田舎の特権でもあるような安心安全な暮らしにも警鐘が鳴らされ始めました。

そんな中、みんなでお互いに知恵を出し合い、それを実行して少しでも問題解決の糸口が見出されることを願っています。みんなでお互いに、よりよい地域をつくってまいりましょう。

本年もよろしく願っています。

第 38 号たより編集委員

山越 英隆、横田 弘美、五十嵐 豊